



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言

1-2ページ

参加記

3ページ

新人紹介

4-5ページ

事務局通信

6-10ページ

学術局(成人)

11ページ

学術局(小児)

12ページ

学術局(生涯学習)

13ページ

学術局(新人教育)

14ページ

地域局

(北薩地区担当)

15ページ

社会局

(地域リハ・広域)

16ページ

社会局

(地域リハ・市内)

17ページ

社会局

(公共事業・保険)

18ページ

社会局(広報局)

19ページ

財務局

20ページ

編集男誌

巻頭言

令和6年能登半島地震での災害支援活動の経験

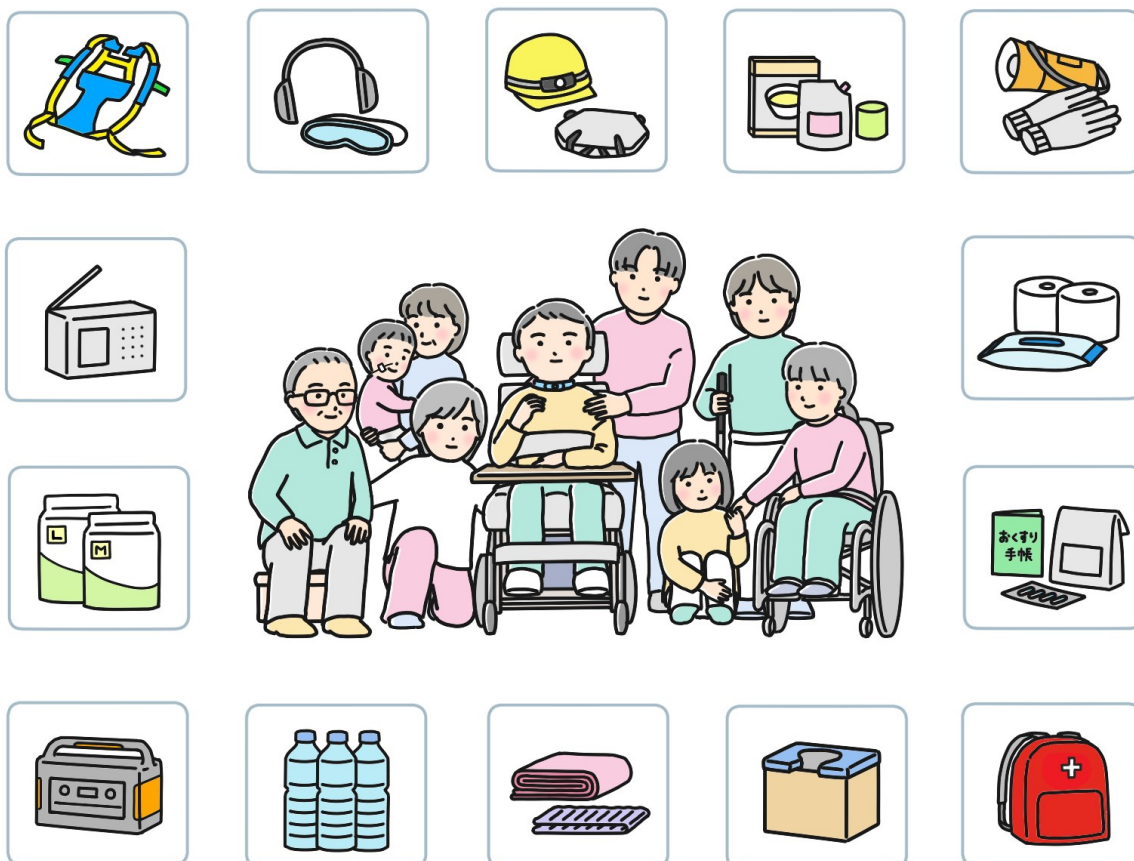
はじめに、令和6年1月1日に石川県を中心とする北陸地方で発災した甚大な災害におきまして、犠牲になられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様や関係者に心よりお見舞い申し上げます。

令和6年能登半島地震後の一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)初動対応として、1月4日には日本リハビリテーション病院・施設協会事務局にJRAT東京災害対策本部が立ち上がり、また石川JRAT災害対策本部の活動も開始されました。8日には石川JRATと石川県が協定締結され、9日には全国規模で支援チーム派遣を展開することが決定されました。今回、私が活動に至るまでの経緯として、国際医療財団の災害医療研修(アドバンスコース)を修了した者に対して11日より現地活動本部内でのロジスティクス要員募集の連絡があり、職場や家族の承諾を得て派遣申し込みや業務調整を行った後、26日から29日にかけて石川県リハビリテーションセンター(金沢市内)内に設置された石川JRAT活動本部にて派遣活動を行いました。ロジスティクスとは被災地域内での医療活動を円滑に行えるよう、情報収集や連絡、調整などの業務のほか、通信、移動手段、必要物品の準備、宿泊地等を確保するといった後方支援活動の事を言い、石川JRATや全国から派遣された方々と協同し本部運営に務めました。活動内容は本部と活動隊や外部団体、避難所でやり取りされた内容を時系列に記録するクロノロジーや活動内容をまとめた日報の作成、日々変化する避難所ルールに応じて活動隊が必要とする書類の作成、オリエンテーションや本部マニュアル再編等を、話し合いながら模索・決定していく作業を繰り返し行いました。さらに各現場から報告される多くの情報をもとにToDoリストを作成し、現在取り組むべき事項は何か、いつまでに解決すべきか、進捗等を適宜確認・協議しながら目の前の問題を1つ1つ解決していきます。通常業務でも協議の場はありますが、膨大な情報を整理し統一のかつ継続した支援を念頭において検討する経験は、たいへん貴重な機会となりました。

また今回挙げた情報より、発災初期より窒息や誤嚥事例が散見され嚥下障害者への対応の必要性が強く感じられました。これは停電や人手・物品不足により支援者が食事提供を行うだけで精一杯な状況にあり、適切な食事形態への対応の難しさがあったと思われます。また能登半島で被災された多くの高齢者が大規模避難所へ搬送され、環境変化や避難生活が長期化することによる二次障害の発生なども起因していると思われます。これはSTを中心としたJRATのみの活動では解決できず、避難所管理者・職員への啓発やミールラウンドを提案し開始されましたが、今後の災害時に備えJMATや栄養士会とも協議し発災直後より対応できる体制や備蓄が構築できればと考えます。

最後に、令和6年能登半島地震への支援は長期化することが予測されます。いつ、何処で起きるかわからない災害へ対して、当士会災害対策部としても啓発や研修会等の教育を進めていきたいと考えます。

医療法人秋津会 徳田脳神経外科病院
 日本言語聴覚士協会 災害対策部
 鹿児島県言語聴覚士会 災害対策部
 下南木 猛



第12回 日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会 大分大会 参加記

「第12回 日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会 大分大会」が1月27日（土）にJ:COMホルトホール大分で開催されました。今回は2大会ぶり完全対面形式での開催ということで、同じ九州内で活躍されている先生方の発表や特別講演を楽しみにワクワクしながら参加しました。

大分大会のテーマは「紡ぐ」ということで、大会長より「関係性をつくっていく、言語聴覚士としての想いを繋いでいく」という思いが込められていると話があり、これまでの歴史を紡いできたからこそこの“今”があり、私達はそれぞれの地で言語聴覚士として考え・動き、人と人を繋いでいるのだと改めて感じました。

大会ではテーマに沿った講演やシンポジウムが行われ、ご高名な先生方による言語聴覚療法のこれまでの歴史について、そしてこれからの未来について拝聴することができました。また、一般演題や症例ディスカッションでは高次脳機能障害・言語発達障害・嚥下障害・構音障害・教育・訪問事業などの分野において多くの演題があり、自分が携わる分野の内容を聞くことができ、刺激を受けより専門的な知見を深めることができました。久しぶりに大分の地に行くことができ、温泉には入り損ねましたが美味しい料理とお酒をいただき、頭も心も体も満たされました。

そして・・・

第13回九州地区学術集会の次回開催地は鹿児島県です！！

←鹿児島大会のテーマは「守・破・離」
～私たち言語聴覚士は何を守り、発展、革新させていくのか～

日時：2025年3月22日(土)・23日(日)

場所：かごしま県民交流センター
(カクイックス交流センター)

多くの方が参加され、新たな刺激の場・情報共有の場・交流の場となることを楽しみにしています。

鹿児島医療技術専門学校
福元恵美

第13回
日本言語聴覚士協会
九州地区学術集会
鹿児島大会

私たちが言語聴覚士は何を守り、発展、革新させていくのか

破

守

離

2025
3月22日(土)・23日(日)

《会場》
かごしま県民交流センター

《事務局》
〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町字都口5417-1
学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科

新人紹介

特定非営利活動法人Ryouiku Circleはなはな
きりしま子ども発達支援センター実樹 中原 楓

私は令和5年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、4月より特定非営利活動法人Ryouiku Circleはなはな きりしま子ども発達支援センター実樹に勤務しています。

当施設はきりしま子ども発達支援センター実樹、きりしま総合発達支援センターの2つのセンターからなっています。実樹は児童発達支援と放課後等デイサービス、総合支援センターは放課後等デイサービス事業部門わかば、重症心身障がい児通所事業部門つぼみ、保育所等訪問支援事業部門つくし、生活介護部門いぶき、特定相談支援事業所たんぽぽ、訪問介護ステーションめばえの6部門からなっています。私は実樹とわかばの発達支援、いぶきでの口腔ケアなどに携わらせていただいております。

この1年間は先輩方の見学を通し、療育内容の立案、支援計画書の作成など、業務に必要な知識についての指導を受けながら、先輩と一緒に療育を行ってきました。毎日の学びを通して、療育には言語聴覚士としての専門的な知識に加え、子どもの発達の知識、療育を楽しくする発想法など、多くの力が必要になることを知りました。

現場で特に大変に感じたことは、目標とする活動にどのように子どもに参加していただくかです。慣れない大人との関わりに緊張や怖さがあり、活動が難しい子どもが多いことに悩みました。また、自分の行った療育ではなかなか楽しく活動に参加できない子どもが、先輩方の療育では「楽しかった」と言っているのを見て、自分の知識不足を実感しました。言語聴覚士として働いていけるか不安になることもありましたが、先輩方に丁寧なご指導をいただき、少しずつ「楽しかった」と言っていただけでも増えてきたことが、今の私の頑張る力となっています。

来年度からは私も担当を持つことになり、不安な気持ちでいっぱいです。この1年間に指導をもとに、「楽しかった」と言っていたような療育を行っていきたいです。その中で、自分らしく生きることができるお手伝いができたらいいなと思っています。

今後も新しい知識を学ぶ努力を怠らず、子ども一人ひとりにあった支援を行いながら、ご家族とともに成長を喜ぶことのできる支援者になりたいと思います。



新人紹介

医療法人玉昌会 加治木温泉病院
五反穂香

私は、令和5年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在始良市加治木町にある医療法人玉昌会 加治木温泉病院に勤務しております。当院は、回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、地域一般病棟、介護医療院、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、小児リハビリテーションを提供しております。私が所属する総合リハビリテーションセンターは、「私たちは、住み慣れた地域で、その人らしい生活を送ることができるように人間性・専門性を磨き、その人を取り巻くすべての人が手を携え、活力あるリハビリテーションを行うことを通して、地域に貢献します」という理念を掲げ、日々臨床業務に励んでいます。私は今年度、回復期病棟のリハビリテーションに携わらせて頂いており、早一年が経とうとしています。

入職当初は、いざ1人で患者様を担当するとなると、基礎知識や観察力の足りなさに緊張や不安も多く、毎日「これでいいのか」と悩み、1日1日があっという間に過ぎていくようでした。しかし、私に時間を作ってください患者様を思うと、「このままではいけない」と心底感じ、日々の学習時間や同職種の先輩方への相談、他職種の方とのコミュニケーションの機会を増やすよう努めました。また当院は言語聴覚士の在籍数が多く、院内の勉強会も多い為、成長する環境が整っていると感じています。先輩方へ相談すると真剣に向き合ってください、丁寧なアドバイスや熱心なご指導を頂いています。私もそんな先輩方の背中を見ながら、早く一人前になれるよう、さらに上を目指したいと思いました。現在は院内勉強会だけでなく、外部の研修や交流の場にも積極的に参加することを心がけています。この1年を通して、多くのことを吸収することが出来ました。臨床の場では、患者様がリハビリを通じて食べ物を食べられるようになったり、少しずつコミュニケーションを図れるようになったり、一緒に回復の経過を共有でき、またご家族の方に「ありがとう」と感謝の言葉を頂き、やりがいを感じる事が出来ました。また「きく・はなす・たべる楽しさ」を伝えられるよう、日々のリハビリに取り組んでいます。今が最大の成長期であることを自覚し、勉強や経験を重ねることで専門性を高め、患者様や他職種からも信頼される言語聴覚士でありたいと思います。

そして、言語聴覚士を目指すに当たって、心が折れそうになることもありましたが、時に優しく、時に厳しくご指導していただき、温かく支えてくださった養成校の先生方には厚く御礼申し上げます。今後も日々精進して参ります。

事務局通信

10月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・第11回九州PEGサミットin指宿後援に関して協議され承認された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会の一般演題について、基本的には九州学術集会実行員会が検討することとなるが、県士会としても県内学術向上のため協力することとした。
- ・令和6年2月実施予定の小児研修会・情報交換会の内容について協議され承認された。
- ・生涯学習プログラム症例検討会について協議され、発表は少なくとも30分以上としてすることとした。また、各地区にて開催する際は、地区名を記載することとした。さらに、発表者への指導は、発表地区内の他施設にて指導を優先とすることとし、難しい場合は県士会臨床相談へ連絡することとした。
- ・リハビリテーションフェスティバル委員について増員（予備人員）することとした。
- ・事務局動向が報告された。
- ・介護実習普及センター依頼講師派遣の進捗状況について報告された。
- ・専門職アドバイザー派遣事業について報告された。
- ・鹿児島市お達者クラブ事業について報告された。
- ・ニューズペーパーの進捗状況について報告された。
- ・ホームページ更新について報告された。
- ・新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会会議について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の新人教育研修会の進捗状況について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の生涯学習プログラム基礎講座の進捗状況について報告された。
- ・市民健康まつり実行員会・反省会について報告された。
- ・リハビリテーションフェスティバル会について報告された。
- ・監査について報告された。
- ・会費未納者への対応について報告された。
- ・鹿児島JRAT研究予定について報告された。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会実行委員会の進捗状況について報告された。

11月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・九州地区学術集会大分大会座長推薦について協議され、候補者を決定した（竹中副会長）。
- ・第42回市民健康まつりに関する会場推薦について協議され、理事より会場を推薦することとした。
- ・基礎講座講師向け改訂資料説明会参加者について協議され、参加者を決定した。
- ・九州地区学術集会大分大会での次回大会広報動画について協議され、各理事より動画に関わる素材等を提供することとした。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会での一般演題発表に向けて、症例発表の方法（ことはじめ・論文検索・スライド作成）について動画作成を行うこととした。

事務局通信

- ・小児研修会参加費について協議され承認された。
- ・令和6年度学術講習会講師について協議され継続審議となった。
- ・事務局動向が報告された。
- ・介護実習普及センター依頼講師派遣の進捗状況について報告された。
- ・鹿児島市お達者クラブ事業について報告された。
- ・ホームページ更新について報告された。
- ・新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会会議について報告された。
- ・小児研修会日程について報告された。
- ・鹿児島市公共施設予約システムについて報告があった。
- ・令和6年3月実施予定の新人教育研修会の進捗状況について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の生涯学習プログラム基礎講座の進捗状況について報告された。
- ・北薩地区奨励検討会について報告された。
- ・令和5年度失語・認知・高次脳機能部会研修会中止について報告された。
- ・活動支援金の申請について報告された。
- ・鹿児島JARATに研修について報告された。
- ・訪問リハビリテーション研修会ステップアップ研修会について報告された。
- ・失語症支援者養成委員会について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会関連研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会実行委員会の進捗状況について報告された。
- ・秋期都道府県士会会長会議について報告された。
- ・令和5年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関わる市町村等セミナーについて報告された
- ・鹿児島市医師会・医師報新春号寄稿について報告された。
- ・公認心理師・臨床心理士協会30周年式典について報告された。
- ・リハビリテーションフェスティバル準備委員会について報告された。

12月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・令和5年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会参加者について協議され、川路勇太理事が参加することとした。
- ・九州地区学術集会大分大会でのポスター掲示方法について大分大会に相談することとした。
- ・「症例報告ことはじめ」動画配信内容およびスケジュールについて協議され、承認された。
- ・令和6年度学術講習会講師候補について協議され昭和大学武井先生に依頼することとした。
- ・聴覚部会部長変更について協議され承認された。
- ・南薩地区奨励検討会スケジュールについて協議され、承認された。
- ・リハビリテーションフェスティバルスタッフ追加について検討され、1名追加となった。
- ・会費未納で連絡先不明者について協議され、今後の理事会にて協議することとなった。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会資金の支援（大分大会からの繰越金送金まで）について30万円を一時金として支援することとした。

- ・鹿児島市防災時の人的支援に関するアンケート回答について協議された。
- ・PTOTST連絡協議会理事補欠代議員順位候補について協議され承認された。
- ・事務局会員動向について報告された。
- ・鹿児島市お達者クラブ事業について報告された。
- ・ホームページ更新について報告された。
- ・九州地区学術集会PR動画、ポスター案について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の新人教育研修会の進捗状況について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の生涯学習プログラム基礎講座の進捗状況について報告された。
- ・リハビリテーションフェスティバルに進捗状況について報告された。
- ・大隅圏域地域リハビリテーション活動促進・検討会について報告された。
- ・鹿児島JRAT桜島爆発防砂訓練実施予定について報告された。
- ・鹿児島訪問リハビリテーション研究会のステップアップ研修会のお知らせについて報告された。
- ・鹿児島県歯科医師会主催の口腔管理推進連絡協議会でのオーラルフレイルについて報告された。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会実行委員会の進捗状況について報告された。
- ・公認心理師・臨床心理士協会30周年式典について参加報告された。
- ・鹿児島リハビリテーション医学研究会演題募集について報告された。
- ・九州地区学術集会運営ワーキンググループについて報告された。
- ・鹿児島県医療推進協議会について報告された。
- ・鹿児島県リハビリテーション施設協議会研修事業に関わる費用助成について報告された。

1月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・令和6年度定時社員総会会場及び開催方法について協議され、会場；県民交流センターを第一候補とした。なお開催方法については会場参加型とした。
- ・「症例報告ことはじめ」の配信予定日について協議され、九州地区学術集会大分大会後に配信することとした。
- ・聴覚部会部長変更に伴う新部長について協議され、戌亥氏を承認した。
- ・令和6年度学術講習会の開催時間等について協議され、午前・午後をまたぐ時間帯とした。
- ・南薩地区症例検討会について発表希望者について協議され、希望者が少なかった場合は他地区と合同開催にすることとした。
- ・事務局動向について報告された。
- ・令和7年～8年度定時社員総会日程について報告された（令和7年度：5月18日、令和8年度：5月17日）。
- ・令和5年度保険者機能強化支援事業 全体研修会（助言者編）について報告された
- ・令和5年度地域リハビリテーション活動支援に関する全国担当者会議について報告された。
- ・鹿児島市お達者クラブ事業について報告された。
- ・ホームページ更新について報告された。
- ・ニューズペーパー記事寄稿について報告された。

- ・新生児聴覚スクリーニング等環境整備会議について報告された。
- ・令和6年度学術講習会進捗状況について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の新人教育研修会の進捗状況について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の生涯学習プログラム基礎講座の進捗状況について報告された。
- ・いちき串木野市の地域事業取り組みについて報告された。
- ・北薩・鹿児島地区合同症例検討会進捗状況について報告された
- ・南薩地区症例検討会進捗状況について報告された。
- ・鹿児島JRAT桜島爆発防砂訓練について報告された。
- ・鹿児島訪問リハビリテーション研究会のステップアップ研修会について報告された。
- ・鹿児島県歯科医師会主催の口腔管理推進連絡協議会について報告された。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会実行委員会の進捗状況について報告された。
- ・鹿屋市地域リハビリテーション活動支援事業従事者説明会について報告された。
- ・令和5年度肝属圏域地域リハビリテーション連絡協議会について報告された。
- ・会費未納者対応進捗状況について報告された。

2月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・令和6年度定時社員総会資料作成スケジュールについて協議され、承認された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会ホームページ作成に関わる県士会ホームページログイン可能な補佐役追加について協議され、承認された。
- ・言語聴覚療法小児対応施設一覧の開示方法について協議され、継続審議となった。
- ・令和6年度学術講習会講師対応方法について協議され、承認された。
- ・生涯学習プログラム基礎講座3,5講師選定について協議され、小牧氏、尾崎氏が実施することとした。
- ・聴覚障害時支援中核強化事業、発達支援ができるSTの所在共有について協議され、承認された。
- ・リハビリテーションフェスティバルスタッフ旅費に関する県士会補助について協議され、承認された。
- ・事務局動向について報告された。
- ・令和5年度 地域リハビリテーション活動支援都道府県士会担当者会議について報告された。
- ・令和5年度 介護実習・普及センター運営協議会について報告された。
- ・リハビリテーション専門職派遣事業について報告された。
- ・専門職アドバイザー派遣について報告された。
- ・鹿児島市お達者クラブ事業について報告された。
- ・ホームページ更新について報告された。
- ・ニューズペーパー記事寄稿について報告された。
- ・障害福祉部担当者連絡協議会について報告された。
- ・小児・発達部会研修会・交流会開催報告がされた。
- ・令和6年度学術講習会進捗状況について報告された。
- ・令和6年3月実施予定の新人教育研修会の進捗状況について報告された。

- 令和6年3月実施予定の生涯学習プログラム基礎講座の進捗状況について報告された。
- 北薩・鹿児島地区合同症例検討会について報告された
- 南薩地区症例検討会進捗状況について報告された。
- 始良霧島地区定期勉強会・交流会について報告された。
- 令和5年度肝属圏地域リハビリテーション連絡協議会について報告された。
- 来年度予算について概要報告がされた。
- 鹿児島訪問リハビリテーション研究会のステップアップ研修会について報告された。
- 鹿児島県歯科医師会主催の口腔管理推進連絡協議会について報告された。
- 失語症者支援者養成について報告された。
- PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- 九州地区学術集会鹿児島大会実行委員会の進捗状況について報告された。
- 九州地区学術集会運営ワーキンググループについて報告された。
- PTOTST連絡協議会臨時総会について報告された。
- 鹿児島県障害福祉課より訪問があった旨の報告があった。
- リハビリテーションフェスティバルレセプションについて報告された。
- 鹿児島市災害協力協定意見交換会について報告された。

令和6年2月理事会承認まで



学術局 (成人)

「今日はこのぐらいにしておきましょうか？」とするのは、
そろそろやめなければならぬのではないだろうか？」

高橋哲也(理学療法の歩み, 2021)



この1文を読んだときに、ハッとさせられました。つい、私自身が口にしてしまっている言葉だったからです。内容としては、薬物療法や食事療法は根拠を元に具体的な数値を設け投与・提供されているにも関わらず、リハビリの介入は「今日はこのぐらいで・・・」とされていることへの警鐘でした。訓練は先行研究に基づいて、「期間、頻度、強度、量」を決定します。そもそも、評価と目標設定が蔑ろにされているところから「今日はこのぐらいで・・・」となってしまうと推測します。リスク管理として・・・と自分の心の中で言い訳をしていましたが、それであれば、最初から訓練目標の設定を見直す必要があったのかもしれませんが、反省です。

経験を重ねると、新しいことを取り入れることをせず、これまで通りのやり方で対応してしまうことが多くなってしまふことを自覚します。「正常性バイアス」が働いているのかもしれませんが、これまでも上手くいったから、これからも「これで大丈夫」・・・本当にそうでしょうか？昔の当たり前が「今の当たり前ではない」ことを、ここ最近たて続けに実感することがありました。失行の概念や定義（発語失行や肢節運動失行：拙劣症など）に変遷があり、知らず知らずのうちに「嘘」をついていたことがありました。スポーツ選手がプロとしてのパフォーマンスを維持するためにトレーニングを欠かさないように、私達もプロフェッショナルとして、絶えず学び続けなければならないことを実感した瞬間でした。最近、研修会や学会に参加して新しい情報を収集できているでしょうか？新しく発刊された参考書を手にとっているでしょうか？目の前の方を良くする為に先行研究を確認しているでしょうか？新しい知見が更新されているかだけでも、折をみて確認したいと思います。

臨床の中で、これまで遭遇したことのない症例を担当し、困ってしまうことがあるかと思ひます。職場の先輩や同僚に相談できるのであればそれで良いのですが、それでも解決しない場合には、県士会の相談窓口を活用してみることも、選択肢の1つに入れてみてください。施設を含めた環境が違えば、時間を掛けて勉強する領域や内容も異なってくると思ひます。何か良いヒントが得られるかもしれません。

学術局 成人学術担当 小倉道広

学術局 (小児)

小児学術局の松永です。

早いもので2024年も3カ月が終わろうとしています。年明けに掲げた目標の到達度はいかがでしょうか？順調でしょうか？（私はというと「時間がなかったから！」、「忙しかったから！」、「来週から！」など、何かと理由をつけて「からから星人」で中々進んでいません）。

先日、ある小学校へ訪問支援に伺った際、子ども達が保護者、先生方の前で、「1年間で頑張ったこと・チャレンジしたこと」、「4月から頑張りたいこと」など、1人1人が自分の言葉で力強く発表する姿がありました。それぞれ成長のスピードが違う中、1人1人が目標に向かって1年という時間をかけて、「できるようになりました！」「頑張りました！」「早くなりました！」「嬉しかったです！」と声を出して発表できたのは、本当に素晴らしいことで、子ども達にとっては「大きな一歩（成長）」となった1年間だったんだなと嬉しい気持ちになった時間となりました。

小児学術局でも、年度当初に計画していた対面での研修会と会員の交流会を2月に無事開催することができました。気軽に参加できるオンラインとは違い、改めて対面だからこそ感じられる熱量や雰囲気、そして、直接顔を合わせて話すことの新鮮さを感じた時間となりました。今後も対面での研修会や会員の交流会を継続して開催していきたいと計画をしています。

早速、5月19日（日）に「令和6年度 鹿児島県言語聴覚士会学術講習会」を対面で開催予定です。『小児の構音障害の評価と訓練』のテーマで、講師に昭和大学 保健医療学部保健医療学教育学講師で言語聴覚士の武井良子先生をお招きしご講演をいただきます。会場は「かごしま県民交流センター」となります。ぜひ、多くの会員の方に会場に参加していただき、小児の構音障害に対する理解や対応を深めていただき、また、久しぶりの再会や交流の場としても活用していただければ嬉しいです。

詳細につきましては、県士会LINEや発達STネットワークのLINEでも配信しますので、ご確認のほど宜しくお願い致します！！

小児学術担当 松永宏行（児童発達支援事業所 bamboo）



学術局 (生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。
令和5年9月9日(土)は基礎講座3『職種間連携』、基礎講座4『言語聴覚療法の動向』を講師に鹿児島県言語聴覚士会の染川眞喜代氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。

基礎講座3では総数16名(県内WEB12名、県内現地4名、県外0名)、基礎講座4では総数18名(県内WEB13名、県内現地4名、県外1名)に参加して頂きました。ホームページでも活動報告させて頂きましたが、基礎講座3では、私達が業務をする上で、とても大切な連携について話して下さいました。他職種のことをよく知り、アサーティブなコミュニケーションがとれるようにしたいと改めて思った研修でした。基礎講座4では、現在の医療、介護、福祉、教育、訓練、研究、関連団体の動向をST視点で学ぶことができるとても充実した内容でした。また、多くの分野の流れをとても分かりやすく説明して下さい、経験がない分野も興味が湧いてきました。

また、令和6年3月30日(土)は基礎講座5『協会の役割と機構』、基礎講座6『研究法序論』を講師に学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校の松尾康弘氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)しました。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

この生涯学習はSTが臨床をする上で、とても大切な内容となっています。私達が学ぶ機会が少ない、マネジメントや職業倫理、連携や動向、研究についても学べるものになっており、新人で学び、中堅で学び、ベテランでも聴いた方が良い内容ではないかと思っています。回数の制限はありませんので、毎回の参加をお待ちしております。また、現地参加も少しずつ増えてきています。この機会に顔の見えるST関係を作っていきましょう。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター リハビリテーション部 尾崎 幸平
TEL : 0993-32-9999 FAX : 0996-32-0496



学術局 (新人教育)

今年度は新人教育研修会を2回実施いたしました。年度末でご多忙の折、参加いただき誠にありがとうございました。

コロナ禍と共にオンライン研修会は急激に増加しました。当初は「オンライン・無料」が多数でしたが、今では有料の勉強会がほとんどである印象です。それでも、著名な先生の貴重なお話を費用的、時間的に少ない負担で、自分の好きな時間に受けることができる時代になったことは、鹿児島在住である私たちにとっては恩恵といってもよいのかもしれませんが。子育ての合間に参加できるという点も、とてもありがたく感じているのも事実です。では、鹿児島県士会が実施している、新人教育研修会の意義とは何でしょうか。

わたしたちが日々の臨床で自分が感じた疑問は、きっと誰かも同じように感じています。学んだ内容を臨床に活かす方法を考えるのは、おそらくひとりよりも多くの人の視点と意見と経験があったほうが良いでしょう。臨床で悩み考えたこと、学びを得たことは、縦と横のコミュニケーションによってさらに大きく育まれるのではないのでしょうか。

県士会で行う研修会の最大の魅力は、同じように悩み、努力を続けている同志と出会うことではないかと思います。新人教育研修会では、「つながりができるように」という思いを込めて毎回企画をしています。同じように悩み、頑張っている仲間と出会う機会として、または楽しい自己研鑽の場として、新人教育研修会を活用いただけますと幸いです。仲間と一緒に楽しくスキルアップしていきましょう！

来年度も多数のご参加をお待ちしています。研修会に関する意見、要望がございましたらいつでもお気軽にご連絡ください！

学術局 新人教育担当 木佐貫太陽
研修会の要望はこちらまで！

【Mail】 taiyo.kisanuki.st@gmail.com



地域局（北薩地区担当）

令和5年度より、地域局理事（北薩地区）の担当となりました倉山です。

理事に就任し約1年が経過しました。

前任理事や他の地域局理事の方々にアドバイスを頂きながら、鹿児島県言語聴覚士協会の公式ラインの運用、2月には北薩・鹿児島地区合同症例研究発表会を開催させていただきました。症例研究発表会についてはZoomを使用したオンライン開催だったこともあり、離島や地域を超えての参加も多数ありました。予定時間を30分超過するほど質疑応答は盛り上がり、私を含め参加された皆さんもとても良い刺激を受けた会となりました。しかし、今回はオンライン開催だったので、皆様に直接対面にてお会いできなかったことが悔やまれます。特にコロナ禍を境に対面でお会いする機会が少なくなってしまっているため、地域でのつながりを改めて深めていくためにも、今後は対面での研修会も企画していこうと考えていますので、ぜひ参加していただければと思います。

皆様へのお願い！！

地域局では会員への情報配信をLINEにて行っております。まだ登録がお済みでない方や職場などに登録されていない会員の方がいらっしゃいましたら、ご登録くださいますよう（登録を促すお声かけも）、宜しくお願いいたします。

今後ともご協力宜しくお願いいたします。

北薩地区担当理事
倉山誠也



社会局 (地域リハ・広域担当)

先日、日本言語聴覚士協会主催の令和5年度 地域リハビリテーション活動支援都道府県士会担当者会議 に参加いたしました。昨年9月に加齢性難聴支援研修会が開催され、今回、協会から難聴支援についての情報提供がありました。日本の高齢者の難聴発生率は、年齢とともに増加し、75歳以上の後期高齢者では男女とも約7割に難聴を認めます。また、Livingston G, 2020の報告によると、低教育や社会的孤立、喫煙、うつ等、12個の予防可能な認知症危険因子の中で難聴の比率は最も高くなっています。しかし、加齢性難聴は徐々に進行する特性上、気づかれにくく、受診等の適切な対応に繋がりにくい現状があり、地域包括ケアシステム推進において、通いの場や地域ケア会議等、介護予防の場を利用した加齢性難聴の早期発見・対応が課題となっています。全国における難聴高齢者に対する取り組み例として、大分県では行政と県士会が連携し、難聴に関する項目を追加した「フレイルチェックシートhttps://www.pref.oita.jp/uploaded/life/2164665_3489262_misc.pdf」を作成後、高齢者検診や介護予防事業等で積極的に活用し、難聴の早期発見から受診等を促しています。私達が毎年受けている健康診断で聴力検査を受けている方も多いと思いますが、調べてみると鹿児島県で実施されている長寿検診（後期高齢者の健康診断）において、聴力検査は未実施であることに少し驚き、今後取り組んでいかなければならない課題だと考えます。協会として、難聴支援に関わるSTの資質向上が課題と捉えており、令和6年9月頃、地域における難聴高齢者支援についての研修会を開催予定のため、ぜひご参加ください。また、ユニバーサルサウンドデザインと協会の間で「ヒアリングフレイル」名称使用の契約が締結されましたこと、どうぞ承知おき下さい。

また、別日に鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会に参加いたしました。県士会へ一般県民や介護専門職を対象に、誤嚥を防ぐ食事介助方法等の摂食嚥下障害の内容について、年に約10件、講演依頼がありました。地域リハに関する事業は本事業以外にも県内各地でお達者クラブやリハ専門職派遣事業等があり、ぜひ興味のある方は県士会までお問い合わせいただけると幸いです。

私自身、地域リハに携わるようになって1、2年程であり、まだまだ分からないことはたくさんありますが、鹿児島にお住まいの高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう会員の皆様と一緒に活動できればと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。



鹿児島大学病院 医療技術部
リハビリテーション部門
川路 勇太
TEL : 099-275-5704
FAX : 099-275-6846

社会局 (地域リハ・鹿児島市担当)

現在、POS連絡協議会の活動の一環で、地域リハビリテーション支援活動（お達者クラブへの講師派遣）を実施しております。まだまだ講師の希望者が少なく、講師をしていただける方を随時募集しております。活動に際して社会局が行っております研修の履修が必須となっておりますので興味のある方がいらっしゃいましたらご連絡下さい。

連絡先 鹿児島市医師会病院
言語聴覚士 瑞穂 哲也



社会局 (公共事業・保険担当)

令和5年度より、前理事である樋渡健太郎さんの任期満了に伴い、新たに理事となりました末吉が、社会局の公共事業と保険部門を担当させていただいております。会員の皆様のお役に立てるように努めてまいります。

今年度の公共事業は、鹿児島県介護実習・普及センターより、例年通り9件の介護講座の講師依頼を頂きました。介護講座では、県内各地で行われる摂食嚥下に関する介助方法についての講義を鹿児島県言語聴覚士会が担っています。県民の皆様の期待に応えられるように、地方公共団体との連携をとり、講師の選任と滞りない派遣を行なって参ります。

保険部門では、会員の皆様からお問い合わせ頂いた、診療報酬・介護報酬に関するご相談を主に承っております。来年度は、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の同時改定（いわゆるトリプル改定）があり、今年度は既に2件、鹿児島県リハビリテーション施設協議会主催の厚生労働省職員（眞鍋課長）の「診療報酬改定に関する特別講演」や鹿児島県PT OT ST連絡協議会主催の田中昌史議員と宮地拓馬議員による「トリプル改定に向けた研修会」のご案内をさせて頂きました。徐々にトリプル改定の方向性と課題が明らかになってきており、会員の皆様の職場でも、医療・介護分野のDX化や地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みが進んでいる事と思います。

診療報酬・介護報酬をはじめ施設基準等に関するご相談は、複雑な内容の場合、日本言語聴覚士協会にお問い合わせいただくこともありますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずはお気軽に県士会にお問い合わせいただきたいと思いますと考えております。

鹿児島県介護実習・普及センターのご紹介

県民が住み慣れた地域で生きがいを持って安心して暮らし続けることができるように、居宅で介護をされるご家族や福祉施設等の介護専門職員を対象に講座や研修を運営しています。また、かごしま県民交流センターにて、高齢者の方々の生活と心を支える福祉用具や介護ロボットの展示・体験・相談も行っており、失語症者向け意思疎通支援事業の実習（身体介助）でも福祉用具を利用させて頂いています。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム: <http://st-ba.net/contact/>

医療法人 玉昌会 加治木温泉病院
総合リハビリテーションセンター 末吉 孝行
TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778

社会局（広報担当）

今年度、広報局理事に就任し、あっという間に1年が経とうとしています。不慣れな中、皆様のご協力やご助言をいただきながらなんとか1年を過ごすことができました。感謝感謝です。

さて、広報局の今年度の活動としましては、8月に言語聴覚の日のイベントとして「ことばの相談会」を開催させていただきました。小児STの相談員を多く配置し、例年よく相談のあるお子さんの相談からご高齢の方の相談まで幅広く対応してもらいました。風船の配布も再開し、コロナ禍の頃よりも活発に広報活動ができたのではないかと思います。

また、令和6年1月27日に開催された、日本言語聴覚士協会九州地区学術集会大分大会へ参加し、広報の活動をさせていただきました。皆様ご存じでしょうか？次年度の開催は鹿児島県ですよ！現在、実行委員会が着々と準備をしています。皆さんがよく知る御高名な先生方のお話や、最新の治療や知見をともに学ぶことができるようなプログラムを考えております。皆さんぜひ今後の情報に注目してください。

広報局では年2回広報誌を作成しております。広報誌の編集や言語聴覚士を広報するイベントの企画などを一緒に考えてくださる会員の方を随時募集しております。興味のある方はぜひ県士会お問い合わせフォームよりご連絡ください。お待ちしております。

[お問い合わせ - 一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会 \(st-ba.net\)](mailto:st-ba.net)

今後もHPや広報誌を通じて、会員の皆様へスムーズで有意義な案内をして参りたいと考えております。ぜひ、県士会HPをご覧ください。

広報局
三船病院 大島亮平

PUBLIC RELATIONS



財務局

会員各位

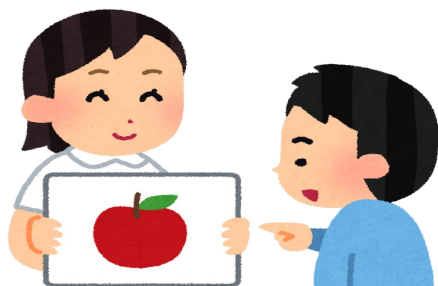
平素より県士会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。二年未納になりますと退会処分となりますので、ご注意下さい。まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

会費についてご不明な点がある方、口座登録用紙が必要な方は財務局メールアドレスまでご連絡ください。対応させていただきます。

財務局メールアドレス
kago_st@yahoo.co.jp

担当 鎮守美和



☆編集男紙☆

会員各位

いつもニューズペーパーをご覧いただきありがとうございます。

広報局では、広報活動へ興味があり、ご協力いただける会員の方を随時募集しております！興味のある方は是非ご一報ください。（[お問い合わせ - 一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会 \(st-ba.net\)](http://st-ba.net)）我々、広報局員と一緒に鹿児島県の皆様へ言語聴覚士という存在を…仕事や役割を…これからも活躍できる場が多くあることを知ってもらいましょう。また、会員の一人一人がその役目を担っていることもお忘れなく日々の業務に励んでいただきたいと願っております。

理事へ就任し、あっという間に1年が過ぎようとしています。「今日も良い日だったな」「今日はこれを頑張ったな」と日々を振り返り、1日でも多く充実した日を過ごせるようにしたいものです。

広報局 大島 亮平